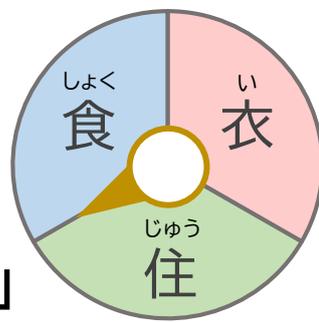




道の道具図鑑(4)

「田舟とレンコン掘り」

「水害とくらしの道具」



墨田区は海が近く、土地が低いという特徴があります。そのため、昔から川があふれて田畑や家が水につかってしまうことがよくあり、江戸時代から明治時代にかけて大きな洪水が何度もありました。特に、明治43(1910)年には2ヶ月にわたって降り続いた大雨の影響による大洪水が起こり、約19万5000軒もの家が水に飲み込まれました。その後、20年もの時間をかけて大規模な川の整備がおこなわれて水害は少なくなりましたが、人々は土を高く積んで家を建てたり、地面の土に細かい木のくずを混ぜて水を吸収しやすくしたり、川があふれた時にそなえて様々な洪水対策をおこなってきました。田舟もまた、大切な荷物を運んだり複数の人が一緒に避難するための備えのひとつです。使わない時には物置などの天井にロープでくくりつけ、つるして収納していました。



約5メートル



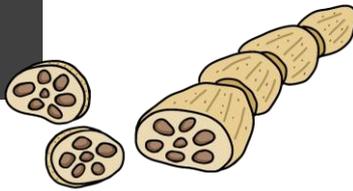
大正時代頃



約30センチメートル

墨田区内でも特に水はげが悪かった向島の東側は田んぼでお米を作るのが難しく、水気が多い土を活かしてレンコン作りがおこなわれていました。手鋤はレンコンを掘るためのスコップです。泥を運ぶために田舟が使われることもあったようです。

手鋤(てすき)



▲レンコン

田舟はもともと田んぼで農作業をする時に使われたものですが、これは川があふれた時に急いで逃げる時に備えたものでした。田舟の持ち主だった安藤家では、明治43(1910)年の大洪水の時に使用したと伝わっています。水門や堤防の建設など水害対策が進むにつれて田舟は処分されていったので、現在残っているものはとても貴重です。この田舟は、震災や戦争でも焼けずに残り、昔の船のつくり方を知ることができるもので、墨田区の「有形民俗文化財」に指定されています。



明治時代

田舟(たがね)



▲つり下げられた田舟

参考資料

明治43年の大洪水の様子を記録した写真

(すみだ郷土文化資料館蔵)



①あふれ返る隅田川



②屋根の上でおにぎりを食べる人



③水が流れ込んだ三田神社

ものしりワーク

昔の道具とすみだのくらしを学ぼう！

()年()組

名前()



第1問

右の道具はレンコンを作る時に使われた「手鋤」という道具です。

どのように使われたでしょうか？次のA～Cの中で正しいものに○をつけましょう。

- (A) レンコンを食べる時に切る
- (B) 土の中のレンコンを掘る
- (C) レンコンをのせて運ぶ



キーワード

雪 / 池 / 川 / 海 / 雨 / 水道 /
魚をつかまえる / 逃げる / 様子を見に行く

第2問

「田舟」は、農作業以外にどのような時に使われた道具でしょうか？

次の()にあてはまる言葉を、上のキーワードの中から選んで書きましょう。

(①)がたくさん降って(②)があふれた時に(③)ため

第3問

「田舟」は、使わない時はどのようにしまわれていたでしょうか？

次のA～Cの中で正しいものに○をつけましょう。

- (A) 物置などの天井にロープでつるしておく
- (B) 地下室に入れておく
- (C) 川の近くの木などにロープでくくりつけておく